2013年3月5日
公益財団法人ヤマト福祉財団

［宮城県漁業協同組合「七ヶ浜町水産振興センター」建設事業］
「真の意味でのブランド力向上へ」
新築工事の起工式が行われました。

３月４日、公益財団法人ヤマト福祉財団（本部：東京都中央区、理事長：有富慶二、以下：ヤマト福祉財団）「東日本大震災　生活・産業基盤復興再生募金」の第４次助成先の一つである宮城県漁業協同組合では、平成25年９月の完成を目指す「七ヶ浜町水産振興センター」の起工式を執り行いました。

海岸沿いに七つの集落があったことから名づけられたという七ヶ浜町は、仙台から東に約20㎞の宮城県中部に位置し、南は太平洋、東と北は松島湾と三方を海に囲まれ、起伏に富んだ景観や穏やかな気候にも恵まれた地域です。日本三景・松島の一角を成し、海水浴場やサーフスポットとしても広く知られています。

宮城県で唯一、ノリ種苗の生産を行ってきた七ヶ浜町の水産振興センターは、国内生産の最北端ノリ生産地として『みちのく寒流のり』のブランド力を高めるべく、種苗生産に取り組み、またマコガレイの種苗生産およびヒラメやホシガレイなどの中間育成、放流事業を行っていました。しかし、東日本大震災の津波によりすべての事業はストップし、養殖業を営む生産者、漁業者は大きな被害を受けています。

宮城県漁業協同組合は、地域の養殖、漁業再建に不可欠な、『ノリの種苗生産・品質改良』『魚類・貝類種苗の中間育成』などの機能を有する水産振興センターを、避難施設を備えた3階建てで再建することを計画し、助成を申請しました。ヤマト福祉財団では、七ヶ浜町の漁業振興を早期に改善するため、復興のカギともいえる七ヶ浜町水産振興センターの再建費用として総額５億7000万円の助成を平成24年2月に決定しました。

起工式で宮城県漁業協同組合の菊地伸悦経営管理委員会会長は「みちのく寒流のりを種苗から自前で生産することがノリ生産者のかねてからの願いです。本施設を最大限活用し、真の意味でのブランド力の向上に邁進します」と挨拶をされました。また、渡邊善夫七ヶ浜町町長は祝辞の中で、「七ヶ浜町漁民が一丸となって、震災前よりすばらしい七ヶ浜の水産業となるよう、町も一緒に頑張っていきます」と話されました。

［新施設の概要］
●建物：鉄筋コンクリート造、地上３階建て　●敷地面積：3,162㎡　●延べ床面積1,842㎡　●施設はノリ種苗培養棟、栽培種苗生産棟、作業管理棟で構成され、従前の施設で実現できなかった設備の強化を図るとともに、作業管理棟の３階に災害時には避難所としての機能をできるようにしています。

震災で寒流のりの元となる種苗が全滅したが、起工式を迎え復興への光明がみえてきた、と挨拶される菊地会長

「待ちに待った起工式。いち早く復興してみなさまにお応えしたい」と渡邊町長

穿始の儀で鍬を入れる有富理事長（中央）